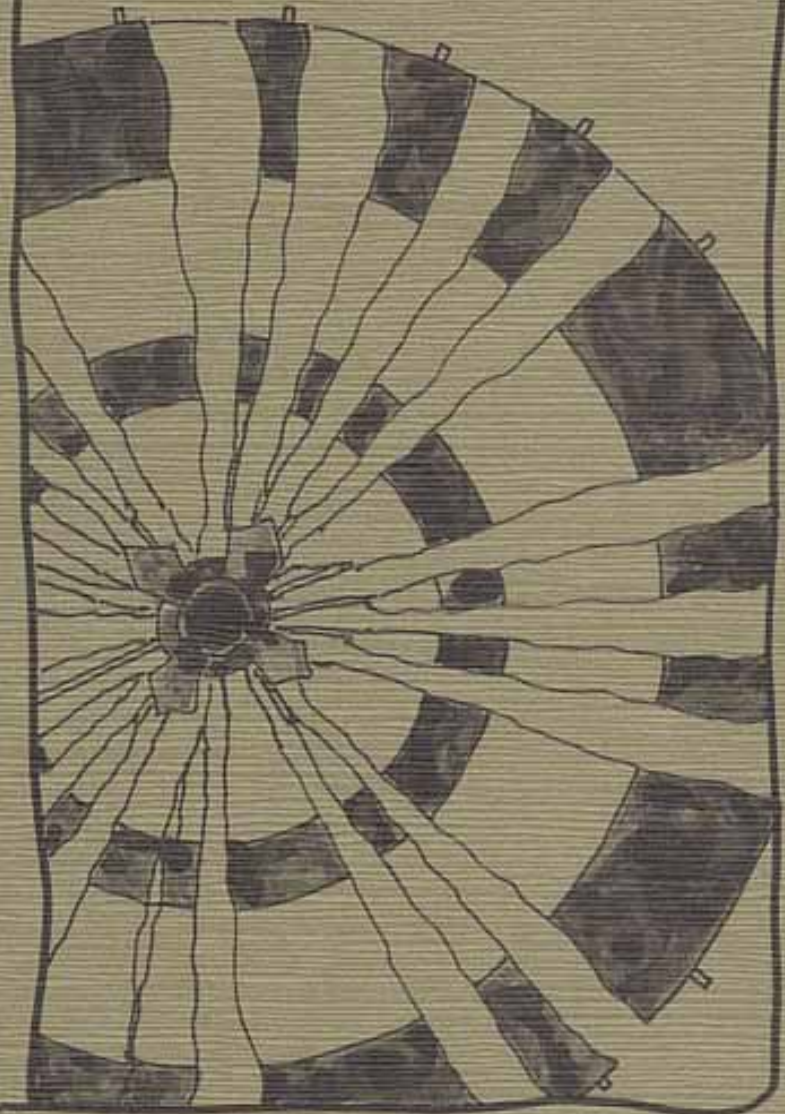


やぶれ傘



一一六号

二〇二〇年十月

芋の葉の傾くままに雨流し 根橋宏次
 団栗の落ちたばかりの薄みどり 大島英昭
 栗飯の栗を表に出して盛り きくちきみえ
 秋風の頂上にまたひとり来る 白石正躬
 菜園の茄子は大きく曲がりある 廣瀬雅男
 蟬穴がずらり自転車仮置き場 渡邊孝彦
 みてゐればゆるゆるほどけいわしぐも 青谷小枝
 八月は故人を想ふそんな月 丑久保 勲
 浄土へと妻戻りけり盆の月 瀬島酒望
 鮑には梨一玉の重みかな 小山よる
 むか床を出づる紫紺の秋の茄子 藤井美晴
 朝顔が別れのやうにこのところ 安藤久美子
 掛橋のかけ替へらるる竹の春 天野美登里
 新道の途切れるところ葛の花 秋山信行
 青嵐子はじやんけんをして別れ 有賀昌子

抄 集 句 傘 ぶ れ や

大 崎 紀 夫 選

バン焼いて庭の紫蘇の葉添へて食ふ 松村光典
 蟬時雨聞こえるときと聴くときと 武藤節子
 花少し咲かせて萩の枝揺るる 村田 武
 泊らずに子等帰りゆく盆の月 浅嶋 肇
 殻はせる筵の上の新大豆 石塚清文
 また一軒隣組減る蟬時雨 岩藤礼子
 ゆつくりと池面に降りる蜘蛛の糸 神山市実
 うろこ雲帰宅うながす子のメール 亀岡陸子
 ファドを聴く夜濯少し後にして 木村瑞枝
 夕風のころは金いろねこじやらし 倉澤節子
 初ものの桃手のひらに載せてみる 小巻若菜
 落ちさうな水玉とどめ蓮の葉 野口希代志
 秋暑し子は浄土への道なれば 橋本美代
 炎天下重機爪置く昼休み 広瀬 济
 身にしちや早逝の子を語る兄 本郷美代子

芋茎干す

大崎紀夫

うみうしを棒でつついてゐる炎暑
青くるみ山廬は西の空の下
ゆらゆらと運ばれてゆく蟬の羽根
峰雲と小さいままである雲と
ひまはりのうしろにまさをなる昼間

炎昼の川を流れてゆく葉っぱ
雨が葉に当たるたうもろこし畑
風の過ぎたるあとの草ながめ
砂利道の水澄んでゐる水たまり
柿あかく小雨降る日が暮れてゆく
芋茎干すあたりを烏骨鶏あるき
イタリアの岩塩添へて衣被

芋の葉

根橋宏次

芋の葉の傾くままに雨流し
 ねこじやらし路肩の風に吹かれゐる
 たこ足のコードにけつまづく厄日
 切り分けて角すつきりと新豆腐
 露草の割かし群れてゐるところ
 菊芋の横をとほつて畑まで
 何時しかに失せし卓袱台栗ごはん
 呼べばくる猫ゐて蒸し藪うまし
 らつきよの花咲くころを海を見に
 千屈菜のまばらなれどもまぎれなく

団栗

大島英昭

秋茄子の一個がさがるプランター
 団栗の落ちたばかりの薄みどり
 数珠玉を見てふくれゆく雲を見て
 盆の月ゴルフネットにかかりたる
 秋涼し小犬にじつと見つめられ
 たうがらし夕日俄に雲を出で
 その家のカンナはまつ赤雨あがる
 この道のをはるあたりか稲びかり
 女郎花昨日と違ふ道をきて
 萩咲いて葉が裏がへるほどの風

栗飯

きくちきみえ

片陰にゐて十二時の腕時計
炎昼に伸びるキリンの舌の先
積み上げてあとは崩してかき氷
青空を映して昏し海の夏
宝くじ売り場の前に蟬死んで
雲の峰裾野は海へうやむやに
昼の虫鳴きあるところ抜けてゆく
テーブルに青い水差し秋灯
栗飯の栗を表に出して盛り
台風が来るといふ風さるすべり

秋風

白石正躬

物置の屋根に南瓜の花が見え
雷去りし田んぼ向うに赤城山
青柿が車の上にボンと落ち
秋風の頂上にまたひとり来る
かなかなと鳴けばお寺のひぐらしと
夕ひぐらし線香に火がすぐ付かず
秋旱田の見回りの乗用車
盆の月川に落ちゐるところかな
秋草の川辺にダンプ砂を積む
グライダーの下行く烏秋の午後

茄子

廣瀬雅男

梅雨明けと聞く雨雲の残る空
店先のバケツに浮ぶ布袋草
菜園の茄子は大きく曲がりゐる
荒川の空に稲妻走りけり
良く晴れて風の吹く日の白木槿
行く先も決めぬ散歩や赤のまま
かたまりのままに流るる野分雲
立ち飲みの突き出しに出る衣被
県境の橋の向こうの曼珠沙華
大いなる糸瓜ひとつの糸瓜棚

蟬穴

渡邊孝彦

木槿咲く運送会社駐車場
お蕎麦屋の庭の鉄砲百合に風
蟬穴がずらり自転車仮置き場
本堂の裏の庭石涼新たに
石垣の上の平らに萩の風
月鈴子造成中の田一枚
こぼれ萩この先に木の太鼓橋
行き着けば寺の裏側竹の春
小型機が点となりゆく九月かな
星月夜空にだんだん目が慣れて

いわしぐも

青谷小枝

和光出て銀座の午後の片かげり
 しやわしやわとみんなと蟬ふるさとは
 蟬時雨居住者専用駐車場
 かしかしと肘胼胝乾く夏の果て
 釣り場へは泥の蘆原漕ぎ分けて
 秋没日捨てきれぬ本売りに行く
 また紐にもどる綾取秋灯
 目の青き白猫撫でてゐて月夜
 公園の中央広場いわしぐも
 みてゐればゆるゆるほどけいわしぐも

酔芙蓉

丑久保勲

滴りの岩に両手をついてゐる
 学校の隣りに旧家凌霄花
 トーストにバターを伸ばすけふ土用
 流鏑馬の蹄の音の近づき来
 玄関へは階段二段酔芙蓉
 法師蟬もやしの子尻尾取りをれば
 本棚に古き算盤秋ともし
 鉦叩いづくに生きてゐたのやら
 前の人と付かず離れず星月夜
 八月は故人を想ふそんな月

盆の月

瀬島洒望

くたびれた日除けをくぐり定食屋
玉すだれキッチンカーが来て停まる
仙人掌の鉢を並べる棚二段
たこ焼き屋葦簀を隔て綿飴屋
乱雑に積んだる本に蚊が隠れ
切れさうな紐で風鈴ぶら下がる
浄土へと妻戻りけり盆の月
石垣の上には鐘楼蟬時雨
駅員の見当たaraぬ駅赤とんぼ
辻堂のうしろは墓場蟬時雨

秋灯

小山よる

秋の蟬全ての雲が茜色
エアコンのエコボタン押す残暑かな
電車待つホームに虫の声のして
秋の夜がもうぢき朝になる気配
鞆には梨一玉の重みかな
秋灯客の少なき今日のカフェ
思ひ出したやうに茶を飲む秋灯下
邯鄲や五十になりて歩く道
秋晴や遠くで何か叩く音
音楽もテレビも消して秋の午後

唐辛子

藤井美晴

土砂降りの櫨の葉陰に夏の蝶
敗戦日喉下りゆく心太
芋の葉を揺らして来る雨後の風
爪立てて青無花果の青臭き
自転車が出づる風鈴鳴らし行く
ぬか床を出づる紫紺の秋の茄子
鶏頭の群へ擬木の橋渡る
敷石に吹き散らされし百日紅
雲白くゆき窓枠に放屁虫
透き通るガラスの瓶の唐辛子

杜鵑草

安藤久美子

アルバムを開く残暑の八畳間
蜻蛉の空どこまでも雲なき日
新涼の窓開け放つ小半時
坂上の馬頭観音あかたんぼ
朝顔が別れのやうにこのところ
外は秋茶器を愛でつつレモンティー
花茗荷籠にかすかに土かをる
城址に風のこゑある草の花
杜鵑草バケツに入れて売られをり
駅蕎麦の匂ふホームへ秋の風

竹の春

天野美登里

蟬穴へビ　ー玉二つ三つ四つ
頂の風はエーデルワイスにも
回廊のタイル剥げある盆の月
出水跡の川岸に鯉戻り来る
牛小屋に牛鳴く午後の草の花
オクラ咲く昨夜の雨粒残りゐて
縁側で飲むお茶熱く紫苑咲く
山彦を岩場が返す山薊
秋の蚊の羽音たて来る昼日中
掛橋のかけ替へらるる竹の春

葛の花

秋山信行

ひと跨ぎほどの小流れあめんぼう
とんぼうの水面をたたきゆく日暮
箱眼鏡となり孫の足が見え
新道の途切れるところ葛の花
酷暑かな昼餉のあとにすぐ夕餉
落蟬をゴミと捨てたる朝かな
ひとつ採りふたつみつと茗荷の子
飛行機がよく通る日や秋の雲
芋植える木片で幅を計りつつ
初秋の出窓に雨の音しきり

青嵐

有賀昌子

ゴムまりがぽこつとへこむ蟬時雨
外濠の抜けみちはどこ墓
焦げ鍋を磨いてをれば日雷
宿坊はをとこ手ばかり胡瓜もみ
朝もぎの胡瓜いつぽん丸かじり
牧牛が氷菓に寄つてきたりけり
青嵐子はじやんけんをして別れ
コーヒーの苦みほどほど今朝の秋
捨て猫が道のはづれにねこじゃらし
たうもろこしを砲弾のごと積んで

新涼

松村光典

初蟬のこゑを聞きをり窓越しに
夕立あと高田馬場に虹ふたへ
晴れ渡る空に浮き雲百日紅
猛暑日を竹刀担ぎてマスクして
わが庭に生れし葡萄のひと粒を
クロアゲハ庭の花々訪ひ来たる
パン焼いて庭の紫蘇の葉添へて食ふ
新涼の路にひとひら鳩の羽
秋涼しハトに米撒く人のあり
行く路にぽろりとひとつミニトマト

◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	3日火	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	3日火	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	4日木	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日金	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日金	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン6	秋山信行
	21日出	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日出	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	28日出	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
12月	1日火	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	1日火	PM6:00	うらら会	浦和コミセン1	大島英昭
	4日金	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日金	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	7日月	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	19日出	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	26日出	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月20日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所はJR京浜東北線・北浦和駅改札口。

吟行地はさいたま市・見沼。

句会場は浦和コミセン・第7集会室。

◎連絡先

秋山信行	☎ 048-874-0555	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856